

# しあわせ

第 68 号 2009・12



鮮やかにライトアップされた文翔館

せっかく受けたがん検診  
無駄にいませんか？



—— 財団法人 山形県結核成人病予防協会 ——

# せっかく受けたがん検診 無駄にしませんか？

「がん検診を受ける」とは…がん検診（一次検診）を受け、一次検診で精密検査該当となった方が精密検査（二次検診）を受け終わるまでをいいます。精密検査を受けなければ、受けたがん検診は無駄になります。皆さんの周りにもったいないことをしている方はいませんか？

**平成20年度のがん検診受診状況がまとまりましたので報告いたします。**

	受診者数	要精密検査者数	精密検査受診者数	がん発見者数	
胃がん検診	総数	105,163	9,830 (9.3%)	7,707 (78.4%)	117 (0.11%)
	一般市民	58,107	5,718 (10.0%)	4,818 (84.2%)	82 (0.16%)
大腸がん検診	総数	49,056	4,112 (8.4%)	2,891 (70.3%)	25 (0.05%)
	一般市民	111,341	6,574 (5.9%)	4,478 (68.1%)	180 (0.14%)
肺がん検診	総数	63,795	4,083 (6.4%)	2,968 (74.6%)	129 (0.20%)
	一般市民	47,806	2,571 (5.4%)	1,492 (58.7%)	34 (0.07%)
子宮がん検診	総数	72,138	2,774 (3.8%)	2,325 (83.8%)	71 (0.10%)
	一般市民	63,618	2,555 (4.0%)	2,157 (84.5%)	66 (0.11%)
乳がん検診	総数	8,520	221 (2.6%)	189 (79.0%)	3 (0.04%)
	一般市民	36,191	261 (0.7%)	219 (83.9%)	20 (0.06%)
子宮がん検診	総数	25,456	145 (0.6%)	121 (84.0%)	16 (0.06%)
	一般市民	19,795	116 (1.1%)	98 (83.1%)	4 (0.02%)
乳がん検診	総数	35,080	1,896 (5.7%)	1,714 (85.9%)	69 (0.19%)
	一般市民	24,326	1,280 (5.3%)	1,119 (86.0%)	46 (0.19%)
前立腺がん検診	総数	19,754	736 (3.7%)	590 (81.5%)	20 (0.10%)
	一般市民	16,830	603 (3.6%)	519 (88.5%)	21 (0.54%)
計	総数	11,180	746 (6.7%)	588 (83.3%)	81 (0.72%)
	一般市民	5,640	125 (2.2%)	101 (85.2%)	10 (0.18%)
合計	総数	376,743	22,338 (5.9%)	17,082 (76.4%)	525 (0.14%)
	一般市民	244,432	14,425 (5.9%)	11,794 (81.2%)	432 (0.18%)
計	総数	132,211	7,913 (6.0%)	5,388 (67.8%)	43 (0.03%)

※がん発見者数は「がん検診」も含みます。※一般市民とは、市町村でがん検診を受けた方です。※職場とは職場でがん検診を受けた方です。

## 平成20年度がん検診受診状況

○「仕事が忙しい・仕事が休めない」  
○「症状がなく元気だから」  
などの理由から精検受診率が低くなっています。

また、職域の受診率を上げるには、本人のがん検診に対する意識も大切ですが、職場の理解が重要です。

がんは、日本人の死亡原因の第一位を占める病気であり、また山形県においても第一位となっております。

がんによる死亡を減少させるためには、がん検診の受診者数を増やし早期発見・早期治療をすることが大切です。国では、がん検診受診者数を増やすため、平成19年に「がん対策基本法」を施行し、それに基づき各県で「がん対策推進基本計画」を策定しています。

本県の「山形県がん対策推進計画」では、がん検診受診率を国の目標の50%より高くし、胃・大腸・乳がん検診の受診率を60%以上、肺・子宮がん検診の受診率を50%以上にし、精検受診率を100%にすると掲げています。

県では、この目標の実現に向けて市町村等で実施している「地域保健」と事業所等で実施している「職域保健」との連携をはかり、さまざまな問題の検討をしたり、健康づくりのための情報を流しています。

平成20年度、当協会が実施した各種がん検診の受診者数は、376,743件であり、ほぼ例年とおりの受診者数となりましたが、平成20年度に「基本健康診査」から「特定健康診査」となり健康診断の受診方法が変わったことにより、がん検診の受診者数が減る傾向にありました。この受診者減は、当協会だけでなく、県内・外の検診機関でも起こってしまった残念な現象です。

がん発見者数の合計は525件でがん発見率は平均で0.14%、精検受診率は平均で76.4%となりました。精検受診率については、大腸がんを除くと平均以上の80%台または平均並みとなりましたが、大腸がんについては

当協会でも、がん検診に関わる関係機関として、地域・職域の皆さまからがん検診を数多く受けていただけますよう環境を整え、またがん検診についての正しい情報を常に発信し、せっかく受けていただいた検診が無駄にならないよう努力しております。

皆さまの周りに「がん検診を受けていない

## 『女性特有のがん検診推進事業』をきっかけに…

我が国において、がんは昭和56年から連続して死亡原因の第1位になっています。今やがんによる死亡者は、年間34万人を超える状況であり、約3人に1人が、がんで死亡しています。がんによる死亡者数を減少させるためには、がん検診の受診率を向上させ、がんを早期に発見し、早期に治療することが重要です。

特に子宮がん検診、乳がん検診については、受診率が低いことから、今年度国では、「女性特有のがん検診推進事業」の補正予算措置が講じられました。これは、市町村が特定の年齢に達した女性に対して、子宮頸がん及び乳がん検診に関する検診手帳とが

68.1%と平均を大きく下回りました。例年大腸がんの精検受診率が低いため、精検該当者の方にパンフレット等を添付し、特に力を入れて受診勧奨をしています。なかなか受診していただけないようです。

その原因には、

○他のがん検診の精密検査よりも「苦しい検査」  
○「検査が恥ずかしい」  
などの悪いイメージが先行しているためです。

また、精検受診率を一般住民と職域に分けて見てみると、職域の受診率が低く全体の精検受診率を引き下げる原因となっています。その原因には、

方「やせっかく検診で異常の疑いが見つかった」  
にもかかわらず「精密検査を受けていない方」  
はいませんか？  
治る病気を治らなくしていませんか？  
是非、「自分で」「家族で」「地域で」「職場で」  
がん検診を有効に活用し、がんから身を守りましょう。

がん検診無料クーポン券を送付し、受診促進と健康意識の普及啓発を行い、健康保持・増進を図ることを目的とするものです。本県においては、7月から徐々に事業が開始されており、現在順調に進捗している状況です。本事業をきっかけに検診に関する意識が高まり、山形県がん対策推進計画に掲げる胃・大腸・乳がん検診受診率60%以上、肺・子宮がん検診50%以上がクリアできればと期待しているとします。我々検診機関としても、がん検診の普及啓発を更に積極的に推進するとともに、たくさんの方が受診できるような検診体制を整え、対応して参ります。

# 自分のための 家族のための 地域のための「がん検診」

～がん征圧月間記念市民シンポジウム～



9月13日(日) 酒田市の東北公益文科大学・公益ホールにおいて、酒田市、酒田地区医師会、日本海総合病院、庄内保健所と当会庄内検診センターが主催となって、標記テーマのもとがん征圧月間市民公開シンポジウムを開催いたしました。

「がん」は前述のとおり、我が国の死因の一位であり、罹患者、死亡者共に増えつづけ、特に大腸、肺、乳がん等の増加が目立ち、食生活の改善などによる一次予防、検診による早期発見・早期治療の二次予防の必要性を浸透させることが求められています。

そのような中、胃・大腸がん検診等の受診率向上やがんに関する正しい知識の普及を目的にした標記シンポジウムを開催いたしました。

内容は、多くの方々からご理解を深めていただくため、がんの早期発見と検診の重要性、最新の治療状況等について、医師、行政、検診団体、市民のそれぞれの立場から説明、発表をいただきました。

はじめに、医師の立場から、本間清和酒田地区医師会長(写真右上)の「がん検診 自分と

最後に、東北公益文科大学の黒田昌裕学長から「安心と安全 地域の医療とがん検診」と題し、市民の立場から総括を行いました。

当日は、約500名の市民の方が傍聴し、健康管理の重要性について再認識されたようでした。



# 自分の健康を見直そう ～健康っていいね!～

9月1日～30日「がん征圧月間」  
9月24日～30日「結核予防週間」

我が国の死因の一位「がん」、依然我が国の重大な感染症「結核」。

我が国の「がん」による死亡者数は、年間約33万人で死因の1位。「結核」は今なお我が国における重大な感染症で年間約2千人強が亡くなっております。

これら疾病の正しい知識の啓発と検診の受診勧奨を訴える期間として「がん征圧月間」と「結核予防週間」が設けられています。

当協会では、同期間にテレビ・ラジオ・新聞などのマスメディアによる広報活動や県内5ヶ所で街頭キャンペーンを実施し、受診勧奨や疾病の情報提供を行いました。

今年、エフエムやまがたとタイアップし9月24日からの一週間「健康っていいね!」をキ



9月のテレビスポット。ご覧いただけましたか?

ワードにPRを行いました。これまででは40歳以降のがん検診の受診者層をターゲットと捉え訴えて参りました。が、今回は、これから検診世代を迎え、女性では「がん」が死因の一位となる30歳



代、また生活習慣病は日頃の悪い生活習慣の積み重ねであることから20歳代もターゲットとして捉えました。

従来の広報に加えて、これらの年齢層に訴えることができるように、日頃から若年層の聴取率の高いFM局に重きをおき訴えて参りました。

また、期間中には県内5ヶ所で街頭キャンペーンを行い、パンフレットや受診勧奨のメッセージが入った風船を配付するなど、県民の方々に広く訴え、特に、9月27日(日)には、山形市の文翔館で開催された「やまがたピンクリボンフェスタ」(記事別掲)の会場で乳がん検診を含め、がん検診の受診勧奨や健康知識の普及啓発を行いました。

家族と地域のために」と題した基調講演、松田徹庄内保健所長の「検診で見える胃と大腸 早期がん」、日本海総合病院の本間清明医師及び陳正裕医師の「おっかなくない最新の内視鏡・腹腔鏡治療」について、検診の重要性、早期発見の大切さ、また方が「がん」が見つかった場合の最新の治療技術についてお話をいただきました。

続いて、庄内検診センターの斎藤雅浩診療放射線技師による「知って得する上手な検診の受け方」、市民の健康を担っている阿部直善酒田市健康福祉部長による「住民をまもる全国に先駆ける酒田市のがん対策」について発表を行いました。

山形県の乳がん死撲滅を目指して今年で3回目を迎えた「やまがたピンクリボンフェスタ」。  
今回は、やまがたピンクリボン運動実行委員会事務局長で山形県立中央病院乳腺外科医の工藤俊先生から、ピンクリボン運動についてご寄稿いただきました。



## 乳がん撲滅の願いを込めて

やまがたピンクリボン運動実行委員会事務局長  
(山形県立中央病院乳腺外科医)

工藤 俊 先生

### 乳がん罹患の若年化の現状

最近「アラフォー」とか「婚活」という言葉がブームになっています。「アラフォー」は「アラウンドフォーティ(40歳前後世代)」、「婚活」は「結婚活動」を意味するようです。いずれの言葉も、長く独身時代を過ごした女性が、40歳前後になったのでそろそろ結婚しようかどうしようか、というもののようです。女性の社会進出のためでしょうか、あるいは男性側にも問題があるのででしょうか、未婚者や晩婚者がたいへん多くなっています。これは世の中の趨勢であり、また男女平等という意味ではとても素晴らしいことでしょう。しかし、その

一方で、乳がんという病気にとっては、少々心配なところがあります。

乳がんは、日本の女性が罹るがんの中で、一番多いがんとなりました。しかも、どんどん増えて続けている状況です。その年齢のピークは、40代後半から50代前半ではありますが、30代の後半から急速に増えてきます。

このようにどんどん増えている原因には、食生活の欧米化がまず挙げられています。それ以外にも、未婚や未出産ということも乳がんの大きな危険因子に挙げられています。

つまり、「アラフォー」「婚活」中の女性というのは、相当、乳がんの危険な人たちです。社会構造の変化とはいえ、未婚者や未出産者が増えていることは、この乳がんに関しては、決

して無視してよいものではないようです。

### ピンクリボン運動の意義

一般に、若い人の乳がんは、高齢の人の乳がんと比べ進行も早く、再発・死亡する確率も高いといわれています。また、若い年齢での発症ゆえに、ひとりで悩んでいる人が少なくありませんし、結婚妊娠出産、仕事と、まさにこれから幸せな人生がはじまるという時期にとっても暗い影をおとします。

その一方で、このような若い女性への医療の対応は、決して十分とはいえません。一部の企業や職場では、若い人も検診が受けられるような配慮もありますが、厚生労働省の

指針では、ご存じのように、早期発見のための

乳がん検診は40歳以上が対象になっています。しかし、だからといって、40歳になってから注意すればよいという病気では決してありません。若い人でも乳がんになることを知ってほしい。そして、他人事では無く、自分の事として乳がんという病気の正しい知識を身につけ、早期発見早期治療の大切さの理解を深めてほしいと思います。

それが、世界中で展開している「ピンクリボン運動」の大きな意義になっています。

### 山形ピンクリボンフェスタのねらい

「ピンクリボン運動」とは、ピンクのリボンをシンボルにした、世界規模の乳がんの早期発見、早期治療を呼びかける啓発運動のことです。私たちが、「山形県の乳がんを何とかしよう!」という共通の思いで、3年前、やまがたピンクリボン運動実行委員会を発足しました。メンバーは乳がんの患者会の方々、乳腺専門医師や看護師、検診に携わっている放射線技師などの医療従事者、それに保健師や学生など多職種、幅広い年齢層で構成されています。

その中で、最大の活動は、年に1度企画している「やまがたピンクリボンフェスタ」です。私たち実行委員は、このイベントを通じて、「一人でも多くの県民の方に乳がんという病気や検診の大切さ」を知ってもらえるよう、真摯に

取り組んでいます。

### 3回目を迎えた今回の報告

3回目を迎えた「やまがたピンクリボンフェスタ2009」はこの9月26日27日に、山形市内の文翔館を主会場に開催されました。

会場では、30代の若い女性を対象にした無料マンモグラフィ&超音波検診のコーナーや、乳がんを気軽にかつ楽しく学べる展示啓発コーナー、市民向けの講演会などを企画、さらに山形市の市街地約4kmを歩くピンクリボンウォークや、夜には文翔館のピンク色ライトアップなど、盛り沢山の内容。参加人数も延べ800人と大変盛会に終わることができました。これも、山形県や山形市をはじめとした行政側と、山形県結核成人病予防協会さまはじめ、ご賛同いただいた各企業、団体の皆様のご支援ご協力があったからこそ成し遂げられたことと思います。

### 次回以降の開催に向けての抱負

初めて行った3年前のフェスタでは「ピンクリボンって何?」と、この運動を知らない方も多かったのですが、今年は「ピンクリボン運動『乳がんの運動!』と、県民の皆様にかなり浸透してきているように実感しています。

しかし、山形県の乳がん検診の受診率は、ま



だ30%程度であって、決して満足できる数字ではありません。市町村単位で見ると、最高の大蔵村の80%から、わずか12%という市町村もあり、同じ山形県でも、地域により検診受診率にかなりの格差があるのも事実です。

山形県の乳がん死撲滅を目標に、私たちのこの運動は、まだ始まったばかりです。どうぞこれからも、よろしくご協力致します。

